

小泉政務官ぶら下がり会見  
(株式会社セブン&アイ ホールディングス  
「第12弾東北かけはしプロジェクト」)

(平成27年7月18日(土)14:47~14:54 於)イトーヨーカドー・アリオ西新井店)

(問) 震災から4年半たった今、こうしたイベントをやる意義というのは、どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

(答) 4年半たった今っておっしゃいましたけれど、イトーヨーカドーさんのすごいところは、今日で12回目なんですよね。この12回継続した支援をやっていただけというのは、本当にありがたくて、しかも継続性ということに加えて、今日は若いアイドルグループの方とか、歌手のグループの方、その方を目当てに来たファンの方々も、入口はアイドルとか歌手のグループかもしれないけれど、結果としては復興のことを考えてくれる時間を共有したわけですね。こういったいろんな切り口から、復興の支援をつなげていただけているというのは、名前のおり本当に「かけはし」で、東北の思いと全国民の思いとつなげていただいているなと思いますので、これ、13回、14回、15回と、これからもこのイベントの発展が楽しみです。

今日も買い物の売り場見たけれど、売り方も、本当にね、創意工夫にあふれていましたよ。あれだけいろんな試食をやらせていただいて、あれだけ試食をやっていると買ってくれないんじゃないかというぐらい、もう、味わわせてくれてね。しかも、岩手の小岩井のチーズをただ東北フェアで売るんじゃなくて、そのチーズを詰め放題という形で提供したり。ただ買ってくださいじゃない、その中に楽しさ、そういったものを考えていただいているので、いや、本当にこの支援は、今まで私もいろんなイベントに出ましたけれど、すごく規模としても取り組みとしても、本当にありがたい、そんな支援ですね。

(問) 一方でこの東北の食材というと、風評被害という問題もあると思うんですけれども、そのあたりの現状というのはどのように考えていらっしゃいますか。

(答) これは特に福島県、いくらこう安全ですと言っても、買っていない方がいるのも事実です。だけれども、買って応援しよう、そういった方々に対して、根強いファンにするために必死に頑張っているのが被災地の皆さんなんですよね。

なので、その取り組みが実を結んで、やはりこれは食べたくないという方に食べていただくのはなかなか難しいですから、そうすると、食べていただける方にどこまで継続的な、本当に美味しいから食べるんだと、そこまでつなげていくのがこれからの取り組

みに問われます。

ただ、嬉しいのは、昨日も世界で最も大きいお酒の品評会で、最高の賞をとったのが福島の会津のお酒なんです。会津ほまれという。そしてこの前、日本の中のお酒の品評会でも、鑑評会、最も多くの賞をとったのは福島の日本酒なんです。これはね、一つの希望ですから。多分、日本酒ファンの方、記者の方やマスコミの方も多と思いますけれど、実は日本で一番賞をとるのは、福島のお酒なんです。その福島のお米は全袋検査をやっている唯一の県ですから。これはね、ぜひ飲んでいただきたいですね。

(問) 前回も視察された大槌なんかでは、むしろ生産量が追いつかないといった新しい問題点がこう出てきているというところで、変わりゆくニーズにどのように応えられていくのかなというのを聞かせいただけますか。

(答) 今、記者さんがおっしゃった大槌。ど真ん中おおつち協同組合、ぜひ取り上げていただきたいのは、大槌って、これも余り知られていないんですけど、戸井社長、大槌って荒巻鮭発祥の地なんです。

(戸井社長) そうですか。

(答) そうなんです。結構ね、北海道だと思っている人が多いんですけどね、実は大槌が荒巻鮭発祥の地で、その荒巻鮭の文化がある中で、どうやったら鮭を新たな価値をつけられるかということで、最近そのど真ん中おおつち協同組合が新商品開発をやったのが、鮭のソーセージ。この前、僕が行ったときに、今、商品開発やっていますって食べさせてもらったの、本当に美味しかった。ソーセージを食べて、口の中に鮭の香りが広がって、これは魚食の振興とか地元の水産業の発展に、新たな切り口を見つけたなど。ソーセージを食べると魚食につながっているという。

これね、そういった取り組みを今、小さいかもしれないけれど頑張っていますから、いろんな課題、水産業は特に多いんです。人が集まらないとか、復興の中でもデータを見れば一番、水産業の立ち上がりというのが産業復興では遅れているので、その危機感私達も持っていますから、何とかいろんな取り組みをやって後押しをしていきたいし、そういったものを受け皿として全国で扱っていただいているイトーヨーカドーさんみたいな、その販路、この販路の開拓を支援をしていくということを、これからはしっかりやっていきたいと思います。

(問) 先ほど挨拶でもありましたけれども、新国立競技場なんですけれども、昨日安倍総理が白紙に戻すという判断しましたけれども、この判断をどのようにご覧になりましたか。

(答) ピンチはチャンスですね。もう、これだけいろんな経緯があっ

て、ピンチだからこうなったわけですから。これからはそれをチャンスにつなげて、いろいろあったけれど、最後、本当にいいものができたね、オリンピック・パラリンピックみんなで盛り上げようと、この機運を生むための苦勞だと。苦勞が多いほど達成したときの喜びは大きいと、そういった発想でね、みんな心を一つにオリンピック・パラリンピック本番に向けて取り組まなきゃいけないと、そう感じています。

(問) 2,520億円の工費とか、あとはその国際的な信用とか、工期に間に合わせるとか、いろんな問題あったと思うんですけども、政務官ご自身はどのように考えていらっしゃいましたか。

(答) もう国民の皆さんの声のとおりです。だから、総理の判断になったわけですから。これから、ピンチをチャンスにつなげなきゃいけない。

(問) その判断はこう、支持したいということですか。

(答) うん、もう、決まったことですね。あとは、このピンチをチャンスに変えると。

(問) 安全保障法制についてなんですけれども、法案が衆議院を通過しましたが、この後どのような議論を期待されますか。

(答) 今回、国立競技場のことを含めて、国民の声というのは無視できない、そういったことを踏まえて、衆議院で十分に得ることができなかつた皆さんの理解を、どうやって得ることができるのかというのが問われるのが参議院だと思います。その理解を得るために全力を尽くすと。

(以 上)